

## 全国の整備相談所に寄せられた整備相談事例 Vol. 37

### ケースその1

#### 【内容】警告灯が点灯したまま返すのは問題があるのではないか

・車名：乗用車 ・登録年月：平成19年 ・走行距離：50,000km

5月末に指定整備工場で車検を行ったが、その後、エキゾーストランプが点灯したことから、当工場ではセンサーを交換したが直らなかった。ランプは点灯していても大丈夫だからと言われ乗っていたが、走行中にエンジンが停まってしまった。

工場側が付き合いのあるディーラーに持ち込み調査した結果、故障診断装置によるとカムシャフトセンサー異常とあり、「タイミングベルトのコマ飛び」が原因との診断であった。工場側からは11万円の見積金額を提示されたが、異常があったにも関わらず修復できない車に乗せておき、危険な思いをさせながら誠意のない対応に理解が出来ない。言われるままに、支払いをしなければならないのか、アドバイスを頂きたい。

なお、運輸局にも相談しており、点灯したまま車を返すのは問題があると言われている。

#### 【対応】

了解の上、工場側に確認をしたいとの提案に、現在交渉中なので接触はしないで欲しいとのこと。

整備料金については、正当な作業に対して支払うべきものと思うと説明。「今回の場合、不具合発生時からの因果関係を確認しなければならないと思いますので、警告灯点灯時に適切な対応をすれば故障の範囲を限定的に抑えることが可能であったのか、整備工場に納得のできる説明を求めることは問題ないと思います。

また、個人的に確認するのであれば、他のディーラーに症状から必要となる整備について確認することは可能だと思われます」と伝えた。交渉の状況により再度、相談したいとのこと

### ケースその2

#### 【内容】整備工場の作業ミスが多く信頼がもてない

・車名：不明 ・登録年月：不明 ・走行距離：不明

R自動車に修理と板金を依頼した。オイルパンのガスケットを交換して貰ったが、1,000km走行でオイルが漏れた。無償修理（クレーム）で直して貰った。その後、また1,000kmで漏れて直して貰ったが、心配である。

また、ロアボールジョイントを交換して貰ったが、ハンマーで叩いて取替えしている。プーラーは使わないのか、叩いて足回りが変形している（左右が違う）ので直して欲しい。

屋根の钣金塗装をしたが、1ヵ月後に再塗装（クリアがぼけてきたため）をする。

今度はサンルーフに白いゴミが入っている。また、サンルーフの前方にブツブツが出ている。R自動へ連絡を入れてもつながらない。値段の表示がない。見積りは出ないのかと言うと出てくるが、勝手に違うところを交換している。

#### 【対応】

修理が直っていなければ、直して欲しいことを言うべきだし、勝手に交換されたことについては説明を求めたら良いと話をした。逃げているみたいで担当者と連絡がつかないことについては、工場に対応するように指導することを伝えた。

相談者から、「処分とかできないのか」と言われたので、振興会では指導等をするとところで処分となると運輸支局になると説明した。「指導して欲しい」との要望があったので、工場長に連絡を入れることを伝えた。

## 冬季のリレーエマージェンシーバルブの凍結について

※ リレーエマージェンシーバルブ(RE-6)はトレーラーの安全に関わる重要な部品です。特に冬季及び寒冷地ではリレーエマージェンシーバルブ内に混入した水分の凍結によるブレーキ作動不良が発生します。ブレーキ作動不良による重大事故の未然防止のために日常の点検整備を確実に実施して下さい。

### ■こんな時に凍結すると・・・

- ・寒い夜、早朝の出発時・仮眠中に！！ ブレーキが解除されず発進出来ません。
- ・長い間、ブレーキを作動させたまま！！ ブレーキが解除されず発進出来ません。
- ・高速道路走行中！！ ブレーキペダルを踏んでもトレーラーのブレーキが作動しません。
- ・ハーフブレーキ作動中！！ ブレーキの引きずりが発生し、ドラム・ライニングの異常摩耗発生。
- ・タイヤロックまでブレーキ作動時！！ タイヤロックが維持されパーストする場合があります。

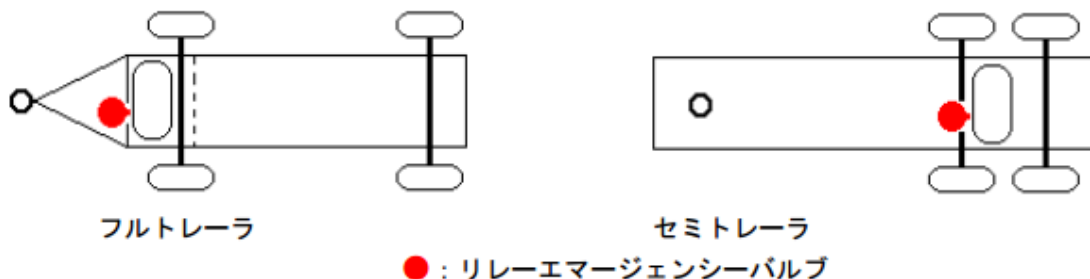
### ■凍結したら

- ・トカスを作動させる、リレーバルブに湯をかける等して凍結を解除して下さい。
- ・走行中に凍結に気づいた時にはトラクターのブレーキで徐々に減速、停止して下さい。

### ■凍結防止のために

- ・リレーエマージェンシーバルブをオーバーホールして水分を除去して下さい。
- ・エアタンクの供水を定期的に抜いて下さい。
- ・リレーバルブ凍結防止ヒーター（トカス）を作動させて下さい。  
トカスは車幅灯の電源を使用しています。凍結のおそれがある場合には車幅灯を点灯して走行して下さい。発進時には車幅灯を点灯して凍結を解除して下さい。  
トカスの使用頻度の多い地域では3年程度での交換をお勧めします。

(参考) リレーエマージェンシーバルブはここにあります。

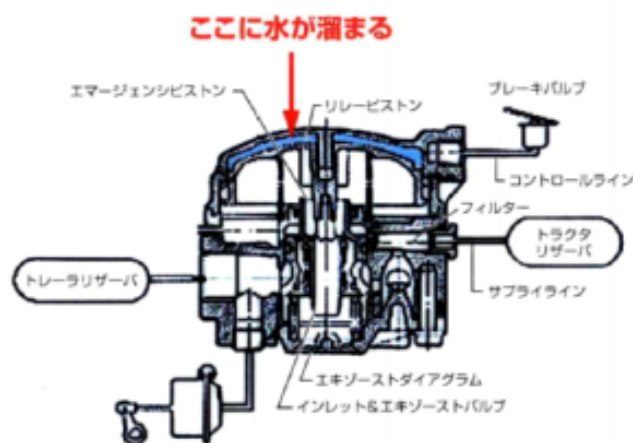


## リレー・エマージェンシ・バルブ内ピストン部の水分除去方法

**専門的な技術、機械工具を必要とする点検整備は専門の整備工場を受けてください。**  
(本装置の分解整備を行う場合は整備要領書に従って作業を行ってください。)

カバーを外し、更にリレーピストンも取り外し、カバー内面及びピストンの水分・スラッジ等を除去しカバー内面に専用グリス(リチウムベースグリスNo2相当)を塗布する。

《例》RE-6の場合(分解内部写真)



この部分の清掃を確実に行う(水分除去)



清掃後のバルブ内部



### 水分除去分解手順

1. コントロールラインのエア配管を取り外す。
2. リレーバルブカバーのボルト4本を取り外す。
3. 上部カバーとピストンを本体より取り外す。
4. カバー部からピストンを分離する。  
(ピストン分離時、コントロールポートよりエアを吹き込むと簡単に外れます。)
5. カバー内側とピストン頭部の水分及び付着物を布等にて清掃する。

※上記点検と同時にコントロールライン及びサプライラインの配管内をエアブローして水分を排出してください。

### トラクタ側のエアドライヤ点検のお願い

**※トラクタ側のエアドライヤを定期的に点検整備、フィルタを交換してください。**

冬季の寒冷地などではブレーキ内に水分が含まれていると凍結して作動不良を起こす要因となります。エアータンクの水分除去を充分に行ってください。

トラクタ側に装着されているエアドライヤは定期的にトラクタの取扱説明書などに従って整備を行ってください。

(日常点検でドレンコックから水が大量に出る場合は、トラクタのエアドライヤの点検整備を早めに行うようにしてください。)

### バルブ内の消耗部品の定期交換のお願い

バルブを分解整備した場合はゴム製品(Oリングなど)及びスプリング類の交換をしてください。バルブ内を洗浄して清浄なグリスの塗布を行ってください。